

「食の安全ダイヤル」に寄せられた質問等(平成28年3月分)について

(1) 問い合わせ件数

平成28年3月1日～平成28年3月31日 77 件
(うち、放射性物質関連 4 件)

(2) 内訳

項目	件数	主な内容
① 食品安全委員会関係	12 件	
委員会	2 件	食の安全ダイヤル、他
リスクコミュニケーション	9 件	健康食品資料関連(3件)、季刊誌(3件)、 海外情報、連続講座、講師派遣
基本法	1 件	
② 食品健康影響評価関係	20 件	
評価全般	1 件	評価書の論文引用
化学物質系	14 件	アクリルアミド(7件)、動物用医薬品(2 件)、農薬(2件)、アルミニウム、ヒ素、 器具・容器包装、
生物系	0 件	
新食品	1 件	遺伝子組換え食品
プリオン	3 件	BSE感染不安(2件)、異常プリオン
その他	1 件	放射性物質
③ 食品一般(リスク管理等)関係	43 件	
化学物質系	12 件	食品添加物(6件)、ビスフェノール A(2 件)、肥育ホルモン、農薬、コムフリー、カ ドミウム、
生物系	1 件	もつの発がん性
新食品	2 件	遺伝子組換え食品、健康食品
プリオン	0 件	
衛生関係	19 件	商品の安全性(6件)、衛生管理(5件)、 食中毒(2件)、変色(2件)、輸出相談(2 件)、輸入食品、異物混入、
食品表示関係	3 件	栄養成分表示、添加物表示、アレルギー 表示、
その他	6 件	放射性物質(3件)、廃棄食品、他
④ その他	2 件	

(3) 主な質問とその回答

○リスク評価関係

【遺伝子組換え農作物の安全性について】

とうもろこし等の遺伝子組換え農作物と非遺伝子組換え農作物との違いは何か。食べても人体に影響はないのか。

⇒遺伝子組換え農作物とは、ある生物から取り出した有用な形質を持つ遺伝子を、他の食用となる植物などに組み込む技術を用いてつくられた農作物。その有用な形質の代表的なものが、特定の害虫に対してだけ有害に作用する物質を作り出す遺伝子を組み入れた「害虫抵抗性」や、オレイン酸含有量を増大する「高オレイン酸形質」などで、栽培の効率化や品質の向上などの利点をもっている。

遺伝子組換え食品については、品目ごとに安全性の審査を受けることが法律（食品衛生法）で定められており、ヒトの健康影響に関する安全性の評価については、食品安全委員会が安全性評価基準を定めて評価を行っている。例えば、遺伝子組換えトウモロコシの安全性評価を行う場合は、遺伝子組換えではない従来品種のトウモロコシと同じように食べても問題がないかについて、食品安全委員会が様々な観点から、安全性を確認している。

具体的な安全性評価のポイントは、

- ・組み込まれた遺伝子は安全か
- ・組み込まれた遺伝子が作り出すたんぱく質に有害性はないか
- ・組み込まれた遺伝子が作り出すたんぱく質にアレルギーを誘発する可能性はないか
- ・組み込まれた遺伝子が間接的に作用し、他の有害物質を作る可能性はないか
- ・栄養成分、有害成分などの構成成分や量が大きく変化していないか

などであり、これらについて科学的なデータを基に判断される。

これらの評価などを踏まえて厚生労働大臣が承認したものだけが一般に流通できる。現在、厚生労働省にて承認された遺伝子組換え農作物は、大豆、とうもろこし、なたね、わた、じゃがいも、てんさい、アルファルファ、パパイヤである。この他に、遺伝子組換え技術を用いて作られた食品添加物や飼料用の農作物等も承認されている。

(参考)

食品安全委員会：遺伝子組換え食品の安全性評価基準

<http://www.fsc.go.jp/senmon/idensi/index.html>

厚生労働省：安全性審査が終了し公表された遺伝子組換え食品及び添加物リスト

<http://www.mhlw.go.jp/file/06-Seisakujouhou-11130500-Shokuhinanzentu/0000071167.pdf>